

条例は他にもこんな内容があります

子どもの権利を守るための大人の役割

市

子どもの権利を守るためのルールをつくり、市民や地域の団体と連携して、子どものための取り組みを進める

事業者

子どものために市などに協力する

学校等の施設

市が進める子ども施策に協力し、施設が子どもを大切にし、安心できる居場所になるようにしていく

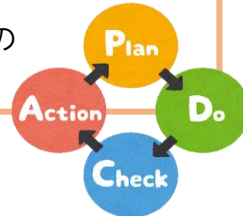
家庭

子どもが自分の意志と力で育つのを支えていく

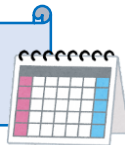


条例の考えを実現するために

市は、条例を推進する計画（子どもプラン武蔵野）を作ります。計画に基づく市の取り組みが子どもや子どもの現場に届いているかも確かめていきます。



条例制定までのスケジュール

令和3年
5月

「子どもの権利に関する条例検討委員会」での検討を開始

令和4年
3月

Teensムサカツ2022春で子どもの権利に関するワークショップを実施

令和4年
5月頃

委員会の考え方についてのパブリックコメント（意見）募集

令和4年
12月頃

市のつくる条例案についてのパブリックコメント（意見）募集

令和5年
2月～

条例案の完成、議会への条例制定議案の提出予定



中高生世代のみなさんも、ぜひ意見をお寄せください。お待ちしております！

▼子どもの権利に関する条例の検討についての市ホームページはこちら



編集・発行／武蔵野市子ども家庭部
子ども子育て支援課
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
電話 0422-60-1851（直通）

武蔵野市子どもの権利に関する条例(仮称)とは？

「子どもの権利条約」に定められた子どもの理念に基づき、武蔵野市においても、「子どもの権利に関する条例」の制定に向けて準備を進めています。

ユニセフ（国際連合児童基金）をはじめ、国際機関や世界中の国々が協力して作成しました

子ども権利条約とは？

子ども（18歳未満）を権利を持つ主体と位置付けて、大人と同じく一人の人間として持っている権利や子どもならではの権利を定めています。子どもの命と健やかな成長を守るため、日本も1994年からこの条約に加わりました。

子どもの権利条約の4つの原則

子ども自身や親の人種、性別、意見、障がい、経済状況などどんな理由によっても差別されず、権利が保障されるということ

命を守られ
成長できること子どもにとって
最もよいこと意見を表明し
参加できること

差別のないこと

子どもに関することが行われる時は、「子どもにとって最も良いこと」を第一に考えるということ

子どもは自分の関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分考慮するということ

どうして子どもの権利に関する条例をつくるの？

「条約」は国同士のルールですが、「条例」は市のルールです。武蔵野市では、「条例」をつくることで、子どもの権利を守るまちとしての大切なルールをずっと残していきたいと考えています。

この条例はどうやって検討しているの？



色々な立場の大人で構成された「子どもの権利に関する条例検討委員会」で検討を進めていますが、Teensムサカツ2022春など子どもの皆さんの声を聴きながら検討しています！

個別のニーズを持つ子どもへの支援

○子どもが、一人ひとりに合った個別の支援を受けることができる

おとなへの移行支援

○子どもがおとなになるときに、自信をもって社会で生きていくために必要な支援を受けることができる

子どもの安心・安全

○子どもの施設では安全に配慮し、事故がおきた場合は、再発防止に取り組む

○子どもがどのような暴力も受けることなく、安心して暮らせる環境をつくる

○虐待は子どもの権利を侵害する行為であるため、虐待から子どもを守る環境を整える

○子どもは、暴力を受けそうになった時には逃げるができる

子どもの意見表明・参加

○子どもに関係のあることを決めるときは、子どもの意見を聴き、意見を尊重する

○子どもが参加することの楽しさを味わえる場をつくる

○市が子どもに関する政策や計画をつくるときは、子どもの意見を聴く機会をつくる

子どもの権利に関する 条例ってどんな内容？

条例で検討している内容の一部を紹介します。どの項目が気になるかな？

子どもにとって大切な子どもの権利

- 安心して生きる権利
- 自分らしく育つ権利
- 休む権利
- 意見表明し、参加する権利
- 遊ぶ権利
- 学ぶ権利
- 差別されない権利

いじめの防止

○子どもへのいじめは子どもの権利を侵害することにあたる

○学校をいじめのない安心できる場にしていく

○いじめが起きたときに、それを解決するための仕組みを整える

子どもの居場所

○子どもが安心して、自分らしくいられるための居場所をつくる

○子どもが、安心できる人とつながり、相談できる場をつくる

○子どもの遊ぶ権利を確保するために、子どものための遊び場を用意する

○学校の外にもいろいろな学びの場を用意する

子どもの権利の広報・学習

○子どもの権利について、家庭や学校などに向けて広報する

○子どもが子どもの権利を知る機会をつくる

子どもの相談

○子どもが直接相談することができる市の相談窓口をつくる

○窓口で相談を受けた人は、子どもの権利を守るための必要な支援を行う

○市の相談窓口のほかにも、困りごとや不安を感じることなどを気軽に話せる身近な相談の場をつくっていく

○相談を受けた人は、子どもの秘密を守る